

「第14回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)中国」表彰式・講演会



平成 28 年 1 月 20 日(水)広島市において、第 14 回キャンパスベンチャーグランプリ中国(以下、CVG 中国)の表彰式を開催した。CVG 中国は、中国地域の大学・高専等の学生を対象に、起業家精神を醸成し、創造性・チャレンジ精神に富んだ人材を育成することを目的として、新事業・商品のアイデアやビジネスプランを募集・表彰するもので、当連合会、日刊工業新聞社、中国地域産学官コラボレーション会議(※)などで構成する実行委員会(委員長: 山下当連合会会長)が運営している。第 14 回となる

今回は 97 件(15 校)の応募があり、その中から最優秀賞など 15 件の受賞プランを表彰した。

※中国地域の産学官連携を推進する主要 88 機関による組織体。当連合会ほか 3 機関が事務局を務める。

◆主催者挨拶

中国経済連合会

会長 山下 隆 氏

今年度応募いただいたプランの中には、ものづくりの新たなアイデアの他、商店街の活性化や自然災害への備えに取り組むもの、介護福祉、医療、教育、観光など、今日の中国地域が抱える社会的課題に係わる提案も多く、学生の皆さんの問題意識の高さを改めて認識した。一昨年、昨年と続けてノーベル賞受賞者を日本から輩出し、改めて基礎科学のポテンシャルの高さが示されたが、研究成果が実を結ぶまでには幾多の失敗を乗り越え、試行錯誤を繰り返し、また、その研究を支えた多くの人々がおられたであろうことは容易に想像される。今回受賞された方はもちろん、惜しくも賞を逃した皆さんも、引き続き粘り強くチャレンジし、社会に貢献されることを期待する。



のではないと感じている。一方で、起業成功の重要なポイントとなる「特許」を意識されている方が少なかったこと、また、世界展開を視野に入れたスケールの大きなプランが少なかったのが残念である。今回、15 校からの応募があったが、中国地方にはまだ多くの大学・高専がある。今後、多くの大学・高専に広がり、応募数が増加することを期待している。

◆表彰

最優秀賞(テクノロジー部門、ビジネス部門各 1 件)、優秀賞(3 件)、特別賞(2 件)、奨励賞(4 件)、佳作(4 件)の表彰があった。



最優秀賞受賞者(左: 伊達さん、右: 山中さん)

◆審査委員長講評

島根県産業技術センター

所長 吉野 勝美 氏

最優秀賞のプランは、自らの研究や体験を通じて世の中のニーズを十分に分析した上で考えられた、新しいコンセプトを持ったプランであり、表現力も非常に優れていた。その他のプランも、若者らしい斬新な発想の面白いプランが多く、これからの日本も捨てたも



◆最優秀賞プレゼンテーション

<テクノロジー部門>

『救急搬送における救命率向上のための ICT を活用した新医療体制の提案』

山口大学 山中雄城さん



現在、中小クリニックや診療所では救急車搬送による急患受け入れは行われていない。そこで救急告示病院（大病院）に中小クリニックや診療所など（中小医療機関）を含めた医療体制および医療機関や救急車輻に導入する救急搬送支援アプリケーションを提案する。

救急搬送を受ける患者のうち、半数を軽症患者が占めているという現状がある。大病院は、本来診るべき重症患者以外の軽症患者の対応に追われ、重症患者のたらいまわしが起きている。そこで既存の救急医療体制の枠組みを越え、特殊な医療施設や技術がなくても対応が可能な軽症患者の受け入れを中小医療機関で行うことにより、たらいまわしが減り、助かる命が増えるだろうと考えた。アプリケーションには医療機関における当直体制の情報や重症度判定基準、搬送先医療機関リストなどを盛り込み、各所が最新の情報を入力することで、救急車、医療機関双方が、必要な情報を照会できるようにする。

<ビジネス部門>

『途上国の手仕事とファッションショーで目指す女性の自立
～Based on I 自分の力で作る服と未来』

広島大学大学院 伊達文香さん



「途上国から世界でトップレベルのファッションブランドを作る」を目的に起業する。途上国と販売市場である日本の中に、服作りを通じたコミュニケーションを提供し、途上国の女性には雇用と励みを、日本の女性には新しいファッションを届けるソーシャルビジネスを展開する。

途上国独自のものづくりの技術や素材を生かしつつ、より品質の高い服をデザイン、制作、発表、販売する行程で、途上国の作り手と日本のお客さまのコミュニケーションを提供する仕組みを作る。具体的には従来の先進国から途上国への一方的な商品の発注ではなく、細かい要望や改善点などに対応させるとともに、可能な限りお客さまの手元に届ける前にファッションショーを行い、より多くの人に服を見てもらう機会を作る。これにより、お客さまに長く愛用して頂ける服作りと、作り手である途上国の女性の励みや自立が達成できるのではないかと考えた。（担当：三上）